

## 第7回「ポストコロナの都市のあり方」有識者ヒアリング（教育・子育て）意見交換の要旨（R3.2.10開催）

### 1 少子化対策

- 戦略として、半分は若い世代にUターンを促し、もう半分は、初めから若者に地元に残るよう促すことが必要。後者は、一旦出て行った若者が戻ってくるのが少ないため
- 地元に残りたいが教育機会や就業機会が少ないために出て行かざるを得ない若者に対して、地元から通学できるので残るように、或いは愛知まで通勤できるから残るように働きかける戦略は必要
- 若いカップルや子どもを持つ世代が戻ってきてくれるように、彼らに受け入れ可能ですよと魅力をどんどんアピールすることが大事。岐阜市の場合、いわゆるベッドタウン戦略になるが、その際、子育て支援と教育がポイントになる
- 各少子化対策の間の優劣を問題とするよりも、メニューを幅広く揃えてやっている自治体が、出生率回復の傾向があることを重視してほしい
- 子育て支援、少子化対策は、産業振興と密接な関係にある。両方やって相乗効果が上がる
- 地域で良質な雇用を生むのはやはり工業。それは大きな製品をつくる工業だけではなく、食品工業などでもいい
- 住む場所を判断する際に教育環境を重視する方が多い。子育て世帯において教育が極めて大きなファクターであることを認識し、魅力的な学びの環境を構築していくことが大事

### 2 インクルーシブ社会の実現に向けたインクルーシブ教育

- 企業の経営者、地域社会のリーダーにインクルーシブ社会への理解を促すには、まず、当事者の話を聞いてもらうこと。岐阜市でも障がい者の意見を意思決定やまちづくりに反映できる仕組みを整えていくことが重要
- 障がい者の雇用が進まない理由は、採用側、受入側に障がい者と接した経験がないから。学校教育の中で、障がいのある人が周りにいることが当たり前で、自分と異なるコミュニケーションパターンを持つ人とどう付き合うかを学ぶことができれば、社会に出た後も障がい者とともに働く・暮らす方法を見い出せる
- 自治体が障がい者に合う仕事を上手くマッチングする就労支援の仕組みを作れるとよい
- 学校でインクルーシブ教育を進める上で重要なのは3点。1点目は、管理職のコミットメント。管理職自身が学校経営計画にインクルーシブ教育を実践していくと書き込むことが重要。2点目は、ICTの活用。ICTで先生の計画作成をサポートしたり、教材をゼロから作るのではなく、既存のものを購入してうまく活用するなどして、負担を軽減していく。3点目は、OJT。その際、授業のどこが優れ、或いは改善点なのかをすぐフィードバックしてもらえらる仕組みが重要
- 子どもたちがインクルーシブの考えを学ぶには、自分の現在の立場が、たまたまマジョリティであるに過ぎないと理解することが重要。異質な人との付き合いの中で、どうやって共存していくのか、お互いにとって心地よい教室にしていくのかを考えることが、子どもたちの力になり、そうして学んだ子どもたちが社会に出たときの地域力になっていく

### 3 未来の学び

- コロナ禍において、改めて学校の意義が問い直された。学校は、子どもたちの生活基盤であり、安全安心に過ごせる居場所である。給食もあり、健康面をサポートするという福祉的な役割も改めて認識された
- これからの学校では、対面、リアルでしかできないことをやる。オンラインでできることはオンラインでやればよい。全国一律で、よい教材を使ってもよい。大事なものは、そこから先で、場とコミュニティを活用した学びを実施すること

- 1人1台タブレット導入後の先生の役割は、ティーチング、ファシリテート。ファシリテートには2つの意味があり、1つは授業。いい教材を探ってきて議論を深める。もう1つは、地域のあらゆるリソースを学校で活用すること
- ICTは本来機械に任せて効率化し、先生の手を空けるものだが、うまく導入しないとかえって負担になってしまう。
- 先生が必ずしもプログラミングを教える必要はない。地域の企業のサポートを得たり、エンジニアに授業に参画してもらえばよい。先生の役割は、プログラミングが得意な人の話を聞き、授業として成り立たせること。そうして開かれた学校づくりに繋げる
- 今は生活習慣づくりやスポーツなど、かつて地域社会が担ってきたことを学校に押しつけている。それらを地域に戻す作業が必要。地域がしっかりと学校を支え、魅力な学校づくりに繋げる
- 学校が、最先端のものがある場所、子どもも大人もワクワクする場所になり、地域のコミュニティのハブとして機能するようになったときに初めて、地域のさまざまな素敵なリソースが集まる場になる
- コロナ禍でオンライン教育が進んだ地域の特徴は学校のトップや教育長のリーダーシップ。社会の変化が加速する中で、先生自身も常に学び続けて知識をアップデートする先に、時代を先取りするリーダーシップが生まれるのではないか。先生方の学び直しの方が大事

#### **4 ポストコロナと教育・子育て**

- 教育に対してもっと支出を、という主張に共感する。一方で、BYODなど行政だけに頼らないやり方もある。家庭が負担すること、行政が負担すること、企業からサポートを得る方法を考える
- マイノリティというとき、LGBT、障がい者を思い描くが、たまたま何かの苦勞を強いられている人たちを含め、幅広くインクルーシブな気持ち、包摂的な精神を持つことで、豊かな地域社会の構築に繋げる
- SNS等で困難な状況は本人の責任という自己責任の論調が見られる。しかし、誰でも困難を抱える可能性はある。困っている人を公的に助けられる仕組みが望まれているのではないか

(以上)